

議会だより



中上 哲一 議員

質問 地方創生事業について

①過疎対策事業との違い

地方創生事業と過疎対策事業の目的は重なる部分が多いと思うが、両事業の関係と相違点について。

②第5次西ノ島町総合振興計画との関係

5次総振計画（H25年～H34年）と地方創生事業との位置づけと整合性、又、計画と実施への組織体制と時期についての関係は。

③人材不足について

本町では、各事業所の人材が不足し事業活動に支障を来している。国、県、町の対策も行われているが、地元産業のための人材確保のシステムづくりを地方創生事業により対応できないか。外国人技能実習制度の活用はどうか。

回答 町長

①過疎対策事業は、人口減少率と財政力指数を基に過疎地域の指定を受けた地域が、特別措置による自立促進を図り、住民福祉の向上や地域格差の是正など

を目的として行う事業である。

地方創生に係る事業は、人口減少対策や地域の住みよい環境確保、活性化などを目的とした「まち・ひと・しごと・創生法」に基づいて策定される「地方版総合戦略」の施策の実施にあたり、国が「情報支援」「人的支援」「財政支援」を行う事業である。

両事業の関係については、過疎計画以外の事業でも「総合戦略」の施策として盛り込まれるものであれば、新型交付金の対象事業として実施できることになる。

②総合振興計画は社会情勢の変化や新たな町民のニーズを踏まえた上で、本町の目指すべき姿やその実現に必要な施策を載せた、町政運営の指針となるものである。

基本的には、地方創生の目的である人口減少対策やそれぞれの地域の住みよい環境確保など同じ方向を目指している事から、総合振興計画の推進が地方創生に繋がって行くものと思う。

なお、基幹プロジェクトを推進する為の具体的な取組内容等の検討は、官民で構成するプロジェクトチームを4月を目前に立ち上げ、島根県の総合戦略を勘案しながら、12月頃には「総合戦略」の案を示していく。

③全国的に人材が不足しており、今後は市町村間で人材確保の競争が激化することが予想され、これまでのような事業所への人件費の軽減策だけでなく、生活面での環境整備は行政が主体となつて取り組み、本町での生活や職場の良さ

をアピールしていくことが必要になる。

外国人技能実習制度の活用については、本町でも民間において確保の動きが見られ、労働力不足を補う方法のひとつと考えている。

総合戦略の策定において、民間や専門のアドバイザーも招致してプロジェクトを立ち上げ、大都市圏からの還流や、地元の人材の確保・定着などを通じて、地域産業を支える人材の確保に必要な施策を検討していく。



尾崎 満 議員

質問 本町の「地方版創生総合戦略」の策定について

急速な少子高齢化の進展に伴い、全国の地方自治体では、人口の現状と将来の展望を提示する地方人口ビジョン、今後5か年の目標や施策の基本的方向また、具体的な施策をまとめた「地方版総合戦略」の策定が求められている。

今年、「地方創生」元年であり、地方のやる気が試されまたその力量も問われるとも言われている。

「西ノ島創生」の重要な一年と考えるが、準備状況も含め町長の考えは。

回答 町長

西ノ島創生については、雇用の場の創出につながる産業の振興、安心して産み育てることのできる子育て支援・少子化対策を最優先に考え、福祉・医療・教育の充実も人口減少対策には欠かせない重要な要素である。

実行にはスピード感をもって取組み、重点的な取組みが必要なものは、基幹プロジェクトとして検討し、優先順位や実現性を考慮しながら、総合戦略に盛り込んで実施していく。

次に、プロジェクトの準備状況は今後のスケジュール、進め方の方針など検討中であり、本町の「総合戦略」案を12月頃には示したい。

現在の状況は、策定の前提となる人口の現状及び将来の見通しを基にした「人口ビジョン」を作成中である。



小島 正春 議員

質問 地方創生と人口減少対策について

国を挙げての施策である地方創生と人口減少問題について、2016年3月までに「地方版総合戦略」を策定しなくてはならない。総合戦略の中身次第で国の交付金に差が生じるとあり、各自治体の知恵比べでもあり、自治体の力が試されている。

総合戦略を作成するまでの過程とメンバー構成をどのように行うのか。また、町長のスローガンである「夢と笑顔のあふれる町づくり」を実行するうえで、どのような戦略を行うか。

回答 町長

「総合戦略」を作成するまでの過程については、人口の現状及び将来の見通しを基にした「人口ビジョン」を作成し、総振の基幹プロジェクトで検討された内容から今後5ヶ年の目標や基本的方向、具体的な施策としてまとめ作成していく。

また、メンバー構成については、官民で構成するプロジェクトメンバーとそれらを取りまとめるワーキンググループで構成したい。プロジェクトメンバーには、子育て世代をメンバーに入れるなど、実益性の高い計画づくりに努める。

「夢と笑顔のあふれる町づくり」については、「人の力」が主役になった町づくりを進め、豊かな資源を活かし、みんなが助け合い、心身ともに健やかに暮らせる西ノ島の実現に向け、総合振興計画の着実な推進に傾注する。



安達 静香 議員

質問1 図書館構想策定について

「図書館が人を育て、人が図書館を育てる」と云われ、図書館は地域の中でも住民の知の拠点、まちづくりの拠点として位置づけられると考える。県内でも公立図書館の整備がされていない本町だが、図書館構想を策定する予定はないのか。

併せて、小中学校新校舎の学校図書館は小中共有型スペースとなる予定だが、本町唯一の学校図書館をどのように考え、どのような構想を持って活用していくか。

回答 町長

図書館は、読書に対するニーズはもとより、幼児から高齢者まで全ての年齢層が気軽に利用しやすいことや、憩いの場、学習の場、又、コミュニティの場など、その役割と機能は多岐に亘っている。

読書活動を通じて様々な情報、知識を得ることにより、文化的で豊かな心と心のある生活を営むことができる施設整備の必要性を常々認識しており、町民の皆さんの意見を伺いながら、施設整備の早期実現を目指す。

回答 教育長

読書活動は子どもたちにとって知的活動や豊かな情操を育み、人格形成の上で大きな役割を果たすものと考えている。

これまで小中学校において「子供読書県しまね事業」を活用し、学校図書や図書ボランティアを配置し、小学校では地域の方々の協力を得て、読み聞かせなども実施している。

28年度には公民館図書室と学校図書館をオンライン化する予定であり、双方から蔵書の検索が可能なシステムを構築したい。

新校舎完成後の学校図書館は、人的配置やシステムの構築によって、蔵書の管

理、整備の充実等を継続して子どもたちの主体的な調べ学習、あるいは安心して過ごせ、心安らぐ空間となるよう小中学校の教職員とも知恵を出し合って、有効活用を努めていきたい。

質問2 ふるさと教育について

10年目を迎えたが、今後はさらに、地域をあげて取り組むべきと考えるが、これまでの取り組みの成果と課題、そして今後の方向性と具体的な案を伺う。

回答 教育長

学校教育と社会教育の両面で様々なふるさと教育に取り組んでおり、学校では総合的な学習の時間を利用して地域交流、小学校の発表会、中学校の演劇活動、ジオ学習、清掃活動等、社会教育では地域力醸成プログラムや自然観察会、公共施設の見学などを公民館活動として行っている。

地域の方々の学校や子供たちを支援する意識が高まっており素晴らしいことである。

課題としては、学校で総合的な学習の時間数が大幅に減り、統合前の3校がそれぞれ実施していた交流事業等は全部継続することが出来なくなり、一部見直しを検討しなければならないことである。

今後の方向性としては、小中学校が連携して成長の過程に見合った活動をすることや「ふるさとネットワーク会議」、「キャリア教育懇話会」等で議論を深め、様々な分野から意見を伺い、充実したふるさと教育の具体策を探っていきたい。



中上 省三 議員

質問 隠岐汽船ダイヤとJR境線の接続について

フェリーしらしまは年間通して境港の着時間は13時20分であるがJR境線の土曜、休日ダイヤは境港発13時22分、乗り換え時間が2分しかない。

西郷発を8時15分にすれば乗り換え時間ができる。又、冬ダイヤのフェリーしらしまは境港発14時10分でJR境港駅着は平日が14時3分、土曜、休日は14時14分であるため、土曜、休日にフェリーの発時間を14時30分にすれば解決できるが町長の考えを伺いたい。

回答 町長

フェリー「しらしま」のダイヤについては、始発を早めると鮮魚類の積み込みに支障をきたすことや、タンクローリーの始動時間を早める必要があること、又、過去8時発とした際に多くの苦情が寄せられた経緯もあり、現在のダイヤとなっている。

境港13時20分着のフェリーには、米子行の接続バスも運行されており、冬ダイヤの際には、そちらの方を利用して頂きたい。

また、フェリーの冬ダイヤの境港発を20分遅くすると終着の西郷港で路線バスがなくなってしまう問題もある。